



つよい子

令和7年度 学校だより

第4号

余市町立大川小学校

令和7年6月30日

【令和7年度 重点目標】 ◎ 『伝わること』を意識して生き生きと表現する子の育成
◎ 思いやりの心を持ち ルールとマナーを守る子の育成

「学び」や「経験」をつなぐ

校長 大山 敏広

5月31日（土）には、スポーツフェスティバルが行われました。保護者・地域の皆様におかれましては、本行事に関する様々な取組に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、当日は盛大な拍手や声援によりスポーツフェスティバルを盛り上げると同時に、子どもたちの意欲と頑張りを引き出し、成長を促していただきました。重ねてお礼申し上げます。

◆スポーツフェスティバルに向けての練習の中では、2年生が1年生に、4年生が3年生に、そして6年生が5年生にアドバイスをしながら表現活動（よっちゃれ・よさこい・琉球音頭）の質を高めようとする場面が数多く見られました。また、当日は、低・中・高学年に分かれての開催となりますが、互いの頑張りを見合う総練習では、高学年の「琉球音頭」を観覧した後輩たちから「すごい！アンコール！もう一度見たい！」という声が上がっていました。

◆互いに全力で取り組んだ活動の中では、心からたたえ合う言葉が自然と出てくるものです。スポーツフェスティバルでは、そのような場面をたくさん目にすることができました。また、種目のみならず低学年・中学年の部の運営に係として力を尽くす高学年児童の姿は、たいへん頼もしいものでした。

◆事後の振り返りの中では、「（今年、上級生にしてもらったように）来年は、下の学年にしっかり教えたい。」と記す子がおり、感心しました。「上級生の自覚」や「下級生から上級生へのあこがれ」…行事で育まれたこの想いを今後も大切にしていきたいと考えています。

◆当日の姿はもちろんのこと、練習の過程からも確かな成果を得られた教育活動であったと感じています。

◆本校では、日常の授業や行事、日々の学級活動を通して、子どもたちが自ら考えて行動するとともに、仲間と力を合わせて物事を成し遂げる経験を重ねられるよう努めています。話し合い活動や一緒に行う活動の中で、お互いの考えを尊重しながら、よりよい答えを見つけていく過程そのものが、大きな学びの機会となります。



◆6月には、5年生宿泊体験学習・6年生修学旅行を実施しました。宿泊を伴う行事は、日常生活の場を離れての活動となるため、いつも以上に順調に進むことばかりではありませんし、自分の思い通りになることばかりでもありません。これらの行事の中でも「相手を敬い、自分の思いを伝え、調整する」経験を重ねています。

◆長期的な視点で考えると、子どもたちが将来、どのような職業に就くにしても、「周りの人と協力する力」「相手を理解し、自分の考えを伝える力」「共に課題を解決する力」が不可欠になると考えます。

◆自分の役割を果たしながら、他者と協力し、変化する状況に柔軟に対応していく…これらは、これからの時代を生き抜く上で欠かせない「生きる力」のように思います。

今の学びや経験が、将来を豊かに生きる力につながるということを肝に銘じ、着実に子どもたちの成長を促すことができるよう、7月も取り組んでまいります。引き続き、本校の教育活動に御理解と御協力をよろしくお願いいたします。